



タイをキーワードにした「外国人活躍の場」 ～コミュニティのモデルを目指して～

サワディー佐賀 代表 山路 健造 (多文化共生マネージャー27期)

お互いが支え、日本での生活を豊かに

「最終目標は、佐賀にタイタウンをつくることです」

サワディー佐賀は、2018年1月に佐賀県で生まれた、佐賀県に住むタイ人やタイが好きな人でつくるコミュニティです。設立以来、「サワディー佐賀ってどんな団体ですか?」と聞かれたら、冒頭のように答えます。タイをキーワードに、お互いが支えあい、「タイ人にとって『住んでよし、訪れてよし』の佐賀県をつくらう」と立ち上がった団体です。

きっかけは、2017年に佐賀県が主催した「タイフェア」(現在のタイフェスティバル)です。タイの映画やドラマの誘致に成功し、タイからの観光客が増えている佐賀県が、タイ文化を発信しようと主催したものでした。ムーピン(焼き豚)やトムヤムクンなどを販売し、大変好評でしたが、「タイ人同士が横の連携をつくりにくい」と感じていることに気が付きました。佐賀県に住むタイ人は80人前後と交流しやすい規模で、留学生のいる大学も2つなので、留学生同士はお互いに交流していると思っていましたが、タイフェアで初めて会ったという方が大半でした。当日は、タイ語での会話を楽しんで終日会場で過ごすタイ人もたくさんいました。

タイフェア開催に際し、佐賀県国際交流協会からタイ支援を30年にわたって実施する認定NPO法人地球市民の会タイ事業担当の私に対し、佐賀県に住むタイ人や



ブンナーク大使(当時、中央)と記念写真に納まるメンバー

タイが好きな人のグループをつくってほしいと依頼がありました。私自身、青年海外協力隊でフィリピンに派遣され、現地人との交流はもとより、駐在の日本人との交流により、生活がより豊かになった経験がありました。「タイ人にも、日本での生活を楽しんでほしい」—。そのような思いから、サワディー佐賀を設立するに至りました。

「在住外国人の活躍の場」がカギ

サワディー佐賀の活動は、大きく分けて4つあります。

(1) 佐賀県内におけるタイ文化の発信

年1回のタイフェスティバルはもちろん、タイ料理教室やタイ語教室など、毎回多くの方にご参加いただいています。講師の方だけでなく、佐賀県に住むタイ人たち、在住外国人の活躍の場をつくらうと考えています。

(2) 祐徳稲荷神社(鹿島市)での通訳ガイドボランティア派遣

佐賀県に住むタイ人が活躍する大事な活動の1つです。同神社は、映画やドラマのロケ地となり、タイ人観光客の“聖地”となっています。タイ人観光客のおもてなしにもつながるほか、タイ語を勉強する日本人と一緒に参加することで、タイ語話者の拡大も期待しています。



祐徳稲荷神社での観光客向けのボランティアガイドの様子

(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会 のホストタウンおもてなし事業

佐賀県は文化交流を背景に、タイのホストタウンに登録されています。1年延期されたことを「ピンチはチャンス」ととらえ、佐賀県民へのタイ文化の促進活動のほか、行政とタッグを組み、ホスト国の文化理解講座や多言語化対応、選手との交流企画など、よりおもてなしできる環境づくりに寄与したいと思います。



事前キャンプをしたパラ・アーチェリーチームとの交流

(4) 災害時のタイ語情報発信

2019年8月、佐賀県を豪雨被害が襲いました。佐賀県と県国際交流協会は、「災害時多言語支援センター」を立ち上げましたが、タイ語は対象外でした。そのため、独自でタイ語発信をしたことを契機に、災害時のタイ語発信に力を入れています。特に、2020年に大流行している新型コロナウイルス（COVID-19）に関する情報発信は、チームを作り翻訳を続けています。

サワディー佐賀の災害時情報発信は、以下のような手順で行っています。①日本人を中心に行政、報道機関の災害情報を入手し、必要な情報をやさしい日本語に直して発信する ②その情報をもとに、日本語の得意なタイ人もしくはタイ語ができる日本人が翻訳する ③タイ人メンバーでネイティブチェックをして、SNSで拡散する。

この翻訳チームは、手前味噌ですが、とてもチームワークがよく、特別定額給付金の申請についてタイ語翻訳した資料は、Facebookで530回以上シェアされ、5万1,000人超が閲覧しました。そのほか、漫画家・羽海野チカさんの手洗いポスターをタイ語訳したものは、Twitterで6万7,000人が目にしました。ただ、コロナ対策は長期化し、ボランティアで翻訳作業を続けるのが息切れしないか心配です。有償でも翻訳を依頼で

きるだけのファンドレイジング（資金調達）の必要性を感じます。

また、今後の災害で避難所がつくられた際に、タイ料理の炊き出しをする「救援 Thai!」も構想しています。災害がないことを祈りますが、外国人は常に支援「される側」ではなく、「する側」にも回れると考えています。

外国人コミュニティのモデルに

サワディー佐賀の強みは、在福岡タイ王国総領事館とも近い関係を築けていることです。コロナ関係の情報発信でも、2020年3月13日に佐賀県内感染者第1号が判明した際には、いち早く領事館へ安否確認の連絡をすることができました。サワディー佐賀という「窓口」があるため、在住タイ人へのマスク配布などの情報発信もしていただけますし、ウェブ会議アプリを使ってタイ人メンバーから、コロナ禍の影響の聞き取りもしていただきました。これも、タイ人メンバーが窓口となり、領事と調整をしてくれたおかげです。

年々在住外国人が増加することに比例し、行政や企業、CSO（市民社会組織）、市民などと、外国人住民をつなげるコミュニティの存在感はさらに増していると感じています。佐賀県でも、サワディー佐賀をモデルに、ベトナムやフィリピンなどのコミュニティにつながる動きも出てきています。全国の外国人コミュニティの皆さまの参考にもなれたらと考えています。

いろいろな国・文化のコミュニティが形成されて重なり合い、そして国籍を越えた多文化共生社会が形成されていくと信じており、サワディー佐賀もその一助になればと考えています。近い将来、タイ人が運営の中心となる組織に育てていきたいと思っています。それが、タイタウンを夢物語に終わらせない一歩だと信じて一。



祐徳稲荷神社の鍋島宮司と在留タイ人ガイド